

普天間飛行場跡地（仮称）普天間公園等検討調査業務 報告書【概要】

●業務委託概要

本件は、沖縄県企画部県土・跡地利用対策課が発注し、株式会社国建・一般社団法人日本公園緑地協会共同企業体が受託して行うものであり、令和5年8月5日から令和6年3月22日までを工期とする。

●調査の背景と目的

（仮称）普天間公園については、これまでに「普天間公園（仮称）への提言書」（平成29年3月）において基本的な方向性が示されている。その後も内容の具体化に向けた検討が行われてきたが、普天間飛行場跡地における大規模公園（（仮称）普天間公園）について国の関与を求めつつ推進を図るためには、公園の基本構想を策定することが必要という認識のもと、「（仮称）普天間公園基本構想（たたき）」（令和2年3月）が作成された。

一方、（仮称）普天間公園を含む普天間飛行場全体の跡地利用についての検討も継続的に進められてきており、昨年度には、計画策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」（令和4年7月、沖縄県・宜野湾市）が公表されたところである。

先の基本構想（たたき）策定以来、このような上位・関連計画の進展に加え、公園緑地をめぐる社会状況も変化してきている。そこで本業務では、こうした状況を踏まえ、基本構想（たたき）についての更新を行うとともに、国営公園への道筋をつけるための調査・検討を行うことを目的とした。

本業務の実施にあたっては、沖縄県及び宜野湾市が共同で進めている普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた取組と連携した上で、幅広い観点から検討を行った。

●作業項目

仕様書項目及び数量		実施数量	報告書項目
(1)（仮称）普天間公園基本構想（たたき）の更新	1式	1式	序章 「（仮称）普天間公園基本構想（たたき）」の更新に向けて Ⅰ 「（仮称）普天間公園基本構想（たたき）」本編 Ⅱ 「（仮称）普天間公園基本構想（たたき）」資料編 Ⅲ 具体項目の検討
(2)有識者ヒアリング及び意見集約	1式 (5名)	1式 (5名)	Ⅳ 有識者ヒアリング及び意見集約
(3)国営公園等への現地調査・ヒアリング	1式 (2か所)	1式 (2か所)	Ⅴ 国営公園等への現地調査・ヒアリング
(4)報告書の作成	1式	1式	報告書および業務概要版

●本年度の主な検討内容

- ・前「基本構想（たたき）」の構成を見直し、構想を独立して活用できるよう、本編と資料編に再編した。またみどりに関する社会動向や有識者の指摘を踏まえ、構想の表現を一部補完修正した。資料編では、普天間公園に係る諸条件を整理したほか、跡地利用の将来像「みどりの中のまちづくり」を公園から実現するイメージについて検討した。
- ・具体項目の検討（1）として、国家プロジェクトに向けた道筋を検討した。近年の動向を踏まえつつ、制度活用の可能性や普天間公園の意義を整理した。
- ・具体項目の検討（2）として、重要な歴史文化資源である並松街道を公園内で整備活用する可能性についてケーススタディを行った。地形改変状況の解析からは、遺構の残る可能性のある場所はごく限られることが判明したが、該当地を取り込みつつ緑道と大規模公園、その他のオープンスペースをネットワークすることを検討した。
- ・有識者ヒアリングでは、基本構想（たたき）や跡地利用計画との連携、大規模公園の推進のあり方などについて意見を伺った。
- ・国営公園等の事例調査・ヒアリングでは、普天間公園(仮称)の参考として、国が整備する公共空地を取り上げた。その中でスケールやテーマに共通項がある国営追悼・祈念施設の2公園を調査・視察した。

【(1) (仮称) 普天間公園基本構想（たたき）の更新】作業実施項目

- ・序章として目的、更新の視点を整理
- ・基本構想(たたき)本編を編集・更新
- ・基本構想(たたき)資料編として、以下をとりまとめ
 - 基本情報の整理
 - 基本方針の具体化検討
 - 新たな緑のまちづくりの核として期待される役割と導入イメージの検討
- ・国家プロジェクトに向けた検討
- ・公園内を想定した歴史文化資源整備活用のケーススタディ

○検討の概要——基本理念の整理

理念まえがき

理念（短文）

普天間公園（仮称）は、「みどりの中のまちづくり」の中核として、平和希求のシンボル及び21世紀の万国津梁の舞台となる空間を実現するとともに、風土に根差した持続可能な環境の価値を創造し続けることを通じて、沖縄振興のみならず日本経済の発展、アジア地域の持続的発展を牽引することを目指す。

○主な検討内容の例——国家プロジェクトに向けた具体的な取組の検討

現行の国営公園等制度の可能性検討（抄）

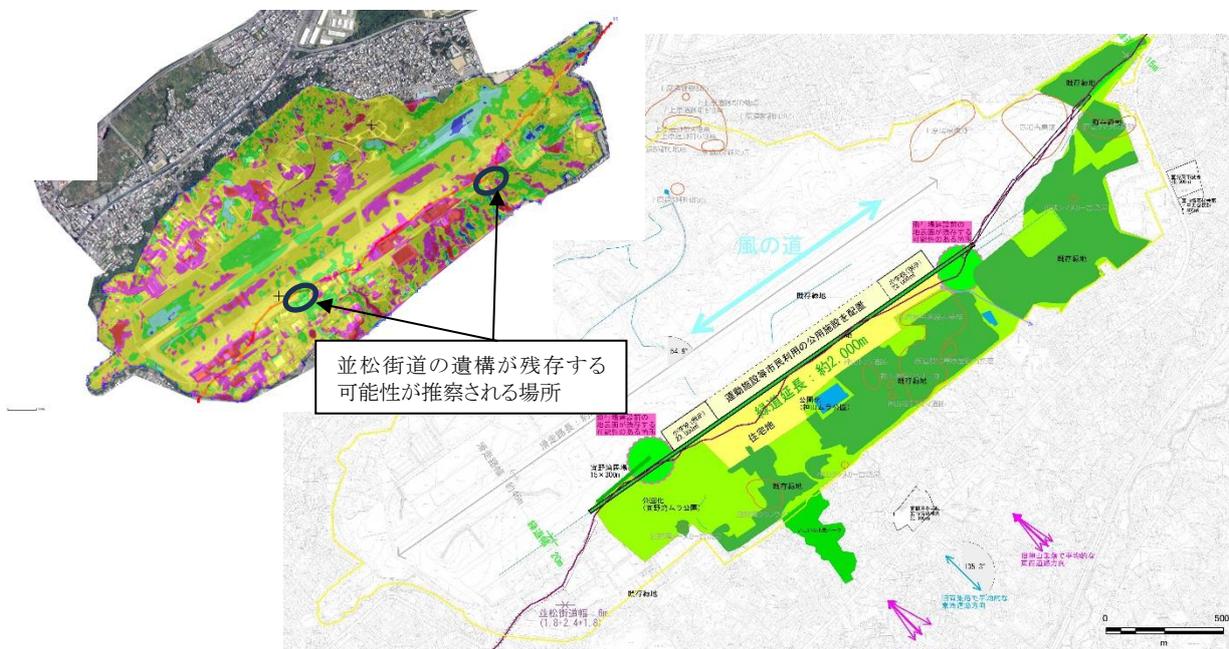
- ・現行制度下での国営公園化を目指すのであれば口号公園、すなわち既存の沖縄記念公園の拡大を目指して「沖縄の復帰を記念する公園」としての位置づけを磨いていくことが妥当。
- ・そのために沖縄県が取り組むべきことは「普天間跡地の返還は沖縄の復帰を記念するものであり、それは国家的記念事業に値するという論理構築や機運醸成を、多角的(異なった立場から)、多面的(様々な側面から)に行なう」ということに尽きる。

その他の道筋の検討（抄）

- ・平和と交流のシンボルとなる「21世紀の万国津梁」を軸としつつ、跡地全体として、国が関与するだけの理由が成り立ち、全国モデルとなるような「みどりの中のまちづくり」が普天間飛行場跡地で実現できるよう県が率先し、市や民間と一体となって取り組むことが、国の関与を導く有効な手段であると考えられる。
- ・その際に必要となるのは、中短期的には国の各種方針を踏まえうえでの「ひと中心のまちづくり」や「まちづくりGX」への対応となる質・量・配置の各面からの緑地の確保・活用であり、長期的には、それを核において産業振興と緑とが結びつき、国際競争力を持つ「みどりの中のまちづくり」の実現であろう。

○主な検討内容の例——歴史文化資源整備活用のケーススタディ

- ・並松街道の遺構残存箇所を分析
- ・緑道・公園・樹林地・公共施設のオープンスペースのネットワークを検討



【(2)有識者ヒアリング及び意見集約】作業項目

- | | |
|-----------------|---------------|
| ・有識者の選定・依頼 | ・ヒアリング実施(5名) |
| ・ヒアリング記録作成、意見集約 | ・検討作業への意見等の反映 |

○対象とした有識者

氏名	所属等	主な意見分野
涌井 史郎氏	東京都市大学特別教授	・環境資本の価値認識と普天間跡地の意義
神谷 大介氏	琉球大学工学部准教授	・防災・交通
小野 尋子氏	琉球大学工学部教授	・戦略としての緑化
岸井 隆幸氏	(一財)計量計画研究所代表理事	・跡地利用計画との連携
池田 孝之氏	琉球大学名誉教授	・国家プロジェクトの位置づけ

○意見の反映点

テーマ	反映点
緑の価値についての社会的認識の高まり	・構想における緑の価値を強化した。 ・ランドスケープイニシアティブの具体検討を行い、戦略的なみどりの施策や多面的な視点を補完した。
国家プロジェクトへの取り組み	・国営公園の道筋を整理した。 ・その他の方法についても検討し課題を整理した。
緑地の配置等の考え方	・交通計画等も考慮した緑地配置イメージに言及した。
参考事例	・アドバイスのあった事例について概略を掲載した。

【(3)国営公園への現地調査・ヒアリング】作業項目

- ・現地調査・ヒアリングの対象選定・依頼
- ・現地調査およびヒアリング実施、調査記録作成

○調査一覧

現地調査	ヒアリング先	調査日	視察のポイント
高田松原津波復興祈念公園	・東北国営公園事務所長 ・東北国営公園業務管理責任者	R5年 11月1日	・国の整備する公共空地の内容 ・県・市の整備範囲と連携状況
石巻南浜津波復興祈念公園	・東北国営公園事務所長 ・管理事務所長ほか	R5年 11月1日	・スケールの確認 ・テーマの表象

